

萩の友

第23号
令和元年(2019)9月発行

萩市文化協会
会長/有富 美子
編集
会報編集委員会
委員長/大場 洋

萩のアーティスト紹介 3人の画家

第74回行動展
(2019年)
出品作品



入選「明日へ (I)」



「逃げた魚は、これくらい」



藤崎恒頼氏(審査員)



入選「調」



倉重洋子さん



大庭博子さん

子どもの演奏会

会長 有富 美子

幼い時から見たたり聞いたりすることが大好きで、大学時代は親からの仕送りやバイト代をやりくりして演奏会へよく通っていた。いまだに年に何回かは演奏会に出かけるが、クラシックの演奏会ではプログラムをめくる音にも気を使い、静かに鑑賞するのが常である。だが今年の夏の終わりに聞いた「清塚信也ピアノリサイタル」は違っていた。彼は幼い時からクラシックピアノの英才教育を受け、中村紘子や加藤伸佳らに師事し、国内外のコンクールで数々の賞を受賞。人気ドラマ「のだめカンタービレ」では玉木宏演じる千秋真一の吹き替え演奏、金曜ドラマ「コウノトリ」ではピアノテーマ及び監修を手掛けたピアノリストである。当日のプログラムの一部ではバッハ、モーツァルト、ベートーヴェンと純クラシックのピアノソナタを分かりやすい解説と軽快なトークを交えながら演奏していく。そこにピアノと張りつめた雰囲気はなく、クラシックを本心に身近に感じさせてくれる。しかも演奏は確かな音楽性で聞く人に感動を与えてくれる。二部では、彼の編曲した曲を中心に練り広げられ、ラスト曲はガーシュインのメドレー、目にもとまらぬ速さとはこのことだと思わせる超絶的な技巧を見せてつけて演奏は終了した。会場から、ため息が漏れ聞こえた。そしてアンコールと続くのだが、彼は言った。「写真、動画をどうぞ遠慮なく撮ってください。でも拍手はお忘れなく」。会場が驚きと笑いでざわついた。私も一瞬耳を疑った。新しいものの好きな私は抵抗もなくスマートフォンをかざしながらアンコールを聞いた。元号も令和に変わって、初めての経験であった。

令和元年度 加盟団体主要行事一覧表 (令和元年10月～令和2年3月)

月	日	時間	行事名	場所	団体名
10	13	9:00~14:00	天然忌茶会	味楽亭(千春楽)	表千家萩千萩会
	19	12:30~16:00	くによの会	渡辺蒿蔵旧宅(江向)	萩三音会
	26	9:30~15:30	第35回萩・阿武・長門合同短歌大会	萩総合福祉センター	萩阿武長門合同短歌会
	26~27	9:00~17:00 最終日16:00	萩華道協会いけばな展	旧久保田家住宅	萩華道協会
	27	13:30~16:00	第36回萩・阿武女声コーラスの集い	阿武町町民ホール	コーラスTomorrow
11	3	12:30~16:30	第28回 萩市民音楽祭	萩市民館大ホール	萩音楽協会
	3	10:30~11:30	福栄ふるさとまつり(太鼓演奏)	道の駅ハピネスふくえ	大板山たたら太鼓同好会
	4	9:30~13:00	萩市合同吟剣詩舞大会	萩市民館大ホール	萩市吟剣詩舞連盟
	16	10:30~11:30	森林だくさんまつり	萩阿武森林組合	大板山たたら太鼓同好会
	23	10:00~16:30	ルネッサ「歌謡フェスティバル」	ルネッサながと	NPO法人北浦音楽芸能文化協会
	24~27	10:00~17:00 最終日16:00	花と人形 夢遊び展	市民館小ホール	萩人形の会
12	7	15:00~17:30	萩吹奏楽団サマーオレンジズクリスマスコンサート	サンライフ萩	萩吹奏楽団サマーオレンジズ
1	19	9:00~16:00	萩川柳会新年句会	萩市民館講義室	萩川柳会

※各団体から報告のあったもののみを掲載。

(前ページから続き)

次世代へ
お二人とも、萩と我が国の画壇を支えておられる藤崎氏への敬愛に口をそろえる。お二人のお弟子さんの話を聞くと、良き師がいかに大きく人の才能を伸ばし花開かせるか、実感として迫ってくる。藤崎氏は、萩市の他、宇部、長門市等でも絵画教室を開くなど、多くの弟子に絵を教えておられるが、次代を担うジュニアへの啓蒙にも力を注ぎ、一例として、萩市美術協会が夏休みに開いているジュニアへの画学校がある。藤崎氏は萩美術協会会長であり、二人のお弟子さんと共に力を入れておられる。今年の萩市美術展でジュニア絵画部門のトップとなった白水小2年生の藤井理央さんは、この画学校で学んだ。お話を聞いて、お三人がいかに絵画に情熱を持っておられるか、ヒシヒシと感じ、そして、芸術、文化を担い発展させるのはこのような方々だと敬服の念を強く抱いた。



取材風景



萩市美術展 萩市議会議員賞
「ハムを食べるカンジ」
白水小2年 藤井理央さん

編集後記

▼発行が遅れて申し訳ありません。情勢の変化に伴い、原稿の大幅差し替えを行った結果ですが、お陰さまで「三人の画家」という内容のある記事を掲載できたように思います▼ご紹介したいことが多く、原稿が長くなってしまい、止むを得ず活字を小さくしました。読みにくいかもしれませんがご容赦を。ご意見をお聞かせください▼これからは、萩市や県、国の文化を支えておられる萩市の方々を紹介していきたいと思えます▼立て続けに甲信越、関東以北を襲った台風。被災された方々に心からお見舞いを申し上げます▼秋です。爽やかな風が心地よい季節ですが、あつという間に朝夕寒さを感じる様にもなりました▼まもなく年越しです。お身体大切にお過ごしください。

(編集委員長 大場 洋)

令和元年度

萩市文化協会総会開催

去る六月三日、萩市民館小ホールで約三十名の会員の出席を得て、令和元年度総会を開催しました。

さらに、議事に続いて今年度から新規会員となった萩ハーモニカ同好会と萩華道協会所属、草月流による「ハーモニカ演奏」と「いけばなデモンストレーション」、下瀬信雄氏による写真展「天地結界」の記念講演を行いました。

総会是有富美子会長の挨拶、米賓の高橋博史副市長の祝辞を受けた後、有富会長を議長に指名して議事に入りました。事業報告及び決算報告、事業計画及び予算など五つの議案を審議し、提案どおり承認されました。



来賓祝辞 高橋副市長

有富会長挨拶

一、平成三十年度事業報告
(一) 主な後援事業

▽吹奏楽による組曲「吉田松陰」

▽ウィーン少年合唱団萩公演

▽第二十三回北浦歌謡フェスティバル

▽萩城のタココンサート

▽第三十四回萩・阿武・長門合同短歌会(十月／萩総合福祉センター)

▽第二十七回萩市民音楽祭

▽第四十五回萩市合同吟剣詩舞道大会

▽萩・第九演奏会

▽池坊山口県連合支部いけばな池坊展

▽Fiore Hagi二十五周年記念演奏会

(平成三十一年三月／萩市民館)

(二) 萩の友 年二回発行(二十一年、二十二号)

二、平成三十年度決算報告
(一) 収入の主なものは、会員からの会費です。

収入総額二四一、四四七円

(二) 支出の主なものは、総会開催に要する経費として五万二千元、会報紙印刷に要する経費として九万円、山口県文化連盟負担金として一万一千円でした。

三、令和元年度事業計画

▽第二十四回北浦歌謡フェスティバル

▽下瀬信雄展「天地結界」

(五月二十三日～七月七日／山口県立美術館)

▽萩美術協会特別展「横山繁作品展」

▽山口県総合芸術文化祭二〇一九第七十四回合唱コンクール山口県大会

▽第三十五回萩・阿武・長門合同短歌会

(十月／萩総合福祉センター)

▽第二十八回萩市民音楽祭

(令和元年十一月／萩市民館)

▽第四十六回萩市合同吟剣詩舞道大会

(十一月／萩市民館)

(二) 萩の友 年二回発行(二十三年、二十四号)

四、令和元年度予算

平年並みの収支となる見込みです。



総会風景



記念講演
写真展「天地結界」
下瀬信雄氏



アトラクション
ハーモニカ
演奏
いけばな
デモンストレーション

萩のアーティスト紹介 Vol.1 三人の画家

今回は萩市のみならず日本の画壇で活躍される三人の方々にお忙しい中、時間を割いていただいております。

藤崎 恒頼氏

ここに昭和五十九年(一九八四年)の「安井賞決まる」という新聞記事がある。日本画壇の具象洋画の新人登竜門といわれる安井賞展の佳作賞を萩市の藤崎恒頼氏が受賞されたという全国版の記事である。安井賞は、一年に一回開催される。安井賞での入賞は我が国画壇の最高峰を極めたに等しい権威あるものである。藤崎氏三十八歳の時である。藤崎氏は早くから絵画の道に進まれ、三十一歳の時(一九七七年)山口県美術展で県知事賞を受賞。先の記事に藤崎氏の受賞作の紹介がある。「藤崎氏の『漁夫』は、密集した男たちの群像が右から左に向けて進む光景である。略々いかにも油絵らしいマチエールのたくましさと、緊密な構力が評価された」と。藤崎氏の油彩展等で目にする氏の迫力ある重厚な作品の印象のとおりである。

同年、行動美術展に初出品して奨励賞を受賞された。行動美術展は、我が国画壇屈指の行動美術協会が年一回開催する展覧会。毎年全国各地から約一千点の搬入がある。藤崎氏は同展で翌年(一九七八年)新人賞、さらに次の年(一九七九年)最高賞の「行動美術賞」を獲得された。そして行動美術協会の会友、会員と進み、今や行動展の審査員のトップを務めている。

藤崎 恒頼氏 画歴

1946年 萩市生まれ

1977年 山口県美術展 県知事賞

同年 行動美術展(初出品) 奨励賞

1978年 行動美術展 新人賞

1979年 行動美術展 行動美術賞(会友推挙)

1981年 行動美術展 柏原記念賞(会員推挙)

以後毎年出品

同年 山口県美術展 最優秀賞

1982年 山口県芸術文化奨励賞受賞

1984年 第二十七回安井賞展 佳作賞受賞

※総理官邸春の園遊会に招待出席

1985年 ザ・メッセージ日本現代絵画八十三人展 日本選抜インド出品

2000年 山口県文化功労賞受賞

※その他、多数の個展や、作品審査に参加。

2017年 萩美術協会会長に就任

現在、行動美術協会の会員として活躍。萩、長門、宇部で絵画教室を開き画家の育成に努めている。

萩美術協会会長、躍動会主宰、萩市文化協会副会長

今年第七十四回となる行動展は九月十八日から二日間、東京都港区の国立新美術館で開催された。藤崎氏は審査委員長として選に当たられたが、この展覧会には藤崎氏の愛弟子二人が絵を出品した。萩市美術展等で萩市民にもお馴染の大庭博子さんと倉重洋子さんである。大庭さんの行動美術展出品は、今年で八回目、倉重さんは二回目である。各々一三〇号の大作であるが、二人とも見事に入選された。大庭さんは惜しいところで入賞を逸したとのことである。お二人の経歴は別記のとおりである。

大庭 博子氏 画歴

1946年生まれ

1989年 安井賞受賞作家 藤崎恒頼氏に師事

2000年 萩市美術展 議長賞受賞

2001年 萩市美術展五十回記念特別賞受賞

2002年 萩市美術展招待作家となる

2005年 全国公募展 第四十二回主体展初入選

2012年 全国公募展 第六十七回行動展初入選

以後、七年連続で入選

2014年 萩市美術展審査員として活動

萩美術協会、躍動会、萩文化協会会員

大庭 博子さん

現在は山口市に在住。絵画活動は萩において藤崎氏に平成元年から師事し、翌年の平成二年以降十三年まで毎年、萩市美術展で受賞した。

平成十三年、第五十回記念の萩市美術展で市長賞に匹敵する特別賞を受賞、翌年から萩市美術展の招待作家となった。平成二十六年から萩市美術展の審査員を務める。

全国公募展での入賞、入選、個展、グループ展の開催等活発に活動している。

行動展へは平成二十四年に初出品、初入選、以降毎年出品、入選している。

「絵の格と品位を大切にしよう先生に教えられ、そのことを心掛けて描いています。また、先生に師事して三十年になりますが続けることも大事だと思っています。今は特に次代を担う後継者を育てることに努めています」と。おしとやかで物静かな印象であるが、お話を伺っていると、その胸の内に絵への並々ならぬ情熱を秘めておられると感じさせられた。

倉重 洋子さん

もう一つの新聞記事がある。倉重洋子さん

倉重 洋子氏 画歴

1943年生まれ

2004年 安井賞受賞作家 藤崎恒頼氏に師事

2004年～2015年 萩女流アート協会会長

2009年 萩市美術展 市長賞受賞

2016年 萩市美術展 市長賞受賞

2017年 萩市美術展招待作家・審査員となる

2018年 全国公募展 第七十三回行動展初入選

2019年 全国公募展 第七十四回行動展入選

萩美術協会、躍動会、萩文化協会会員

を紹介している記事である。「元中学教師、好きな絵は若いころから我流で描いていたが、定年退職後、本格的に始めようと先生について習った」と。先生とはもとより藤崎先生である。師事を受けたのは、平成十六年から。師を得て一気に才能が開いたか、十八、二十年に萩市美術展で奨励賞受賞、二十一年には最高賞の萩市長賞を受賞。さらに二十二年には毎年萩市美術展で奨励賞を受賞して、二十八年に二度目の萩市長賞に輝いた。二十九年からは招待作家で、審査員ともなっている。

行動展には藤崎先生の勧めもあって昨年から出品、二年連続入選を果たしている。朗らかで人懐っこくて行動的な人柄という印象であるが、しっかりと先を見据えて厳し絵に取り組んでおられると感じさせられた。



(次ページへ続く)